

5年生存率の集計方法について

集計対象

- ・2015年1月1日から12月31日までの1年間にがんと診断された例
- ・当院でがんと診断し、かつ初回治療を開始した症例

集計項目

がん種別：胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、前立腺がん、子宮頸がん、子宮体がん、悪性リンパ腫

公表対象

各集計対象の合計が原則30例以上

生存率とは

生存率の算出には、死因に関係なく、すべての死亡を計算に含めた「実測生存率」と、がんによる死亡のみを死亡とみなす「補正生存率」、実測生存率から対象者の属性（性別、年齢、地域等）の期待生存率を除いた「相対生存率」があります。

当院では、Kaplan-Meier法（カプラン・マイヤー法）を用いた実測生存率を算出しています。5年生存率は、がんと診断された年から生存期間が5年経過した時、生存率が何パーセントであるかを示しています。ステージごとの「中央値」は、生存率50%に到達した時間を表しています。生存率が高いがんは、5年経過時に生存率が50%未満に到達しないため、未達成と表記しています。